

事業概要（案）

事業名：JR 余市駅周辺における交通結節点基盤整備調査事業

1. 目的

2030年の北海道新幹線札幌開業に伴い経営分離される函館本線長万部～小樽間について、現在複数個所に点在するJR 余市駅周辺のバス停留所の集約配置や、JR 余市駅前広場へのバスレーンの集約化、現在線路によって分断されているJR 余市駅東西エリアのアクセス向上、パークアンドライドを想定した駐車場の確保など、JR 余市駅周辺エリア（以下「本エリア」という。）の新たな整備について検討が必要なほか、JR 余市駅については、バス同士の乗継ぎを考えた施設機能や、コミュニティ施設や公共施設との複合化、民間参入を視野に入れた施設機能などについても検討が必要である。

余市町の公共交通について、既存の調査資料や追加調査を踏まえながら、JR 余市駅前広場におけるタクシープール、バスレーン、バス停留所、自家用車駐車場、駐輪場等の交通機能の現状を把握・整理し、2030年及び2030年以降の交通状況について将来予測を行う。将来予測を行った上で余市町における交通結節点機能とそのあり方を明確化する。

2. 業務の内容等

- ・業務内容は次のとおりとし、実施にあたっては、高度な技術力、企画力、開発力及び経験が求められる業務であることから、プロポーザルにより提案を募集する。

①余市町の公共交通の現状整理

- ・地域概況及び関連計画の整理
- ・地域公共交通実態整理
- ・住民及び観光客の移動実態・ニーズ把握調査等の実施
※既存資料の活用を前提とし、必要に応じ追加調査実施
- ・本エリアの土地・建物の権利関係の整理

②各交通状況の将来予測

- ・①を踏まえ、バス・タクシー・自家用車・自家用車・自転車・歩行者・各公共交通の接続状況について、2030年・2040年・2060年の交通状況について将来予測を行う

③各時点における余市町の交通結節点としての課題と将来的なあり方の検討

- ・現在：既存のバス停留所の集約、バス転換時を見据えたバス停留

所の配置等

- ・2030年：交通結節点整備工事等の開始に伴う、タクシープール、バスレーン、バス停留所、自家用車駐車場、駐輪場等の交通機能の移設等
- ・2040年、2060年：人口減少に伴うバス利用者の減少等、公共交通を取り巻く環境の変化を見据えた再整備や機能の検討

④参考となる先進事例

- ・本エリアの交通結節点としての再整備、機能の付加、まちづくりと一体となった整備等の先進的な事例について、整備手法、余市町における適応度も考慮しながら、情報収集・整理を行う。

⑤機能強化・整備のあり方と配慮すべき事項の検討

- ・③及び④を踏まえ、機能強化・整備のあり方と配慮すべき事項を検討する。施設整備を検討する際には、公共施設との複合化や民間参入を視野に入れた施設機能の検討を行う。

⑥モデル整備案の検討

- ・⑤を踏まえた整備案の検討を行い、機能や事業費別に3パターン程度モデル案を作成。実情にあった持続可能な整備を検討し、概略機能配置・整備案（イメージパース等）を作成、概算工事費の算定を行うとともに、活用可能な補助金と要件等を調査する。事業展開上の課題について検討・整理する。
なお、概算工事費は、他自治体等における事例を参考に全体工事費を設定する。

⑦整備に向けたスケジュールのシミュレーション

- ・整備計画、概略設計、工事等のスケジュールをシミュレーションしロードマップを作成する。

⑧余市町地域公共交通活性化協議会等の運営支援

- ・本業務における協議先機関である「余市町地域公共交通活性化協議会」の資料作成及び運営支援を行う。※3回程度
- ・本業務において連携を予定する、北海道新幹線並行在来線対策協議会後志ブロック会議及び北海道後志地域公共交通活性化協議会に対して、資料提供など必要な協力を行う。

- ・委託予定期間 令和5年（2023年）10月契約日から
令和6年（2024年）3月初旬まで

- ・委託上限額 ※積算中

3. スケジュール

令和5年 7月下旬 （補助金交付申請）

- 8月中旬 公募開始（プロポーザル）（補助金交付決定）
- 9月上旬 企画提案書受付開始
- 9月中旬 （定例会補正予算）
- 9月下旬 企画提案書受付締切
プレゼンテーション実施
- 10月上旬 選定結果の通知、契約締結（予定）
事業実施開始
- ※協議会（分科会）に事業着手報告、中間協議、最終協議
おおむね3回程度開催を予定

- 翌3月上旬 事業完了